

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_ビジネスコミュニケーション I		( TCM205 )
講義名 (コード)	TCM_ビジネスコミュニケーション I_A		( TCM205A )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	酒井 京子	時間数	30時間
成績評価教員	酒井 京子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が自分とは異なる様々な主張を理解するために、様々な形式の文章から統合的に必要な情報を読み取るようになる。
全体の内容と概要	医療を中心に様々な事柄の文章を読み、ディベートや発表などの活動を通してその事柄だけでなく他者の主張も深く理解していく。高度な日本語表現を習得する。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	この授業の目的や到達目標について理解する。	オリエンテーション JTEST94回
2	1つのテーマについてグループで協力しあいながら調べまわめていくことができる。	テーマ① 分析 JTEST95回
3		テーマ① グループワーク JTEST96回
4		テーマ① グループワーク JTEST97回
5		テーマ① 発表 JTEST98回
6		テーマ② 分析 JTEST99回
7	当事者の立場について、自分の観点だけでなく、他者の視点を聞くことで多角的な分析力を身につける。	テーマ② グループワーク JTEST100回
8		テーマ② 発表 JTEST101回
9		テーマ③ 分析 JTEST102回
10	様々な意見をまとめ、要点をしっかりと伝える力を身につける。	テーマ③ グループワーク JTEST103回
11		テーマ③ 発表 JTEST104回
12	前期の自己分析を行い、後期に伸ばしていく力を見つける。	前期のまとめ
13		前期の復習
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	JTEST過去問題
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_コミュニケーション I		( TCM207 )
講義名 (コード)	TCM_コミュニケーション I_A		( TCM207A )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	渋谷里美	時間数	30時間
成績評価教員	渋谷里美	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	ロールプレイ

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	国際力・人間力教育における、コミュニケーション分野の学びの中で、学生が自分とは異なる様々な主張を理解するために、様々な形式の文章から統合的に必要な情報を読み取れるようになる。
全体の内容と概要	JLPT N1レベルの文法の問題を解く。医療だけでなく、様々な日本語に触れることで広い日本語力を身につけ専門知識を学ぶ上での基礎力を築く。また、通訳の実践に向けたロールプレイを
授業時間外の学修	文法問題をあらかじめ解き、問題点などをまとめたうえで授業に臨むこと。
履修上の注意事項等	会話や情報を正しく、明確に表現するため、積極的に授業に参加する姿勢が必要となる。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	授業内容・目的を理解することができる	ガイダンス（年間スケジュール） 目標設定
2	時事問題① 時事について意見を交換することができる。	時事について意見交換 20日で合格N1 文法 ①
3	時事問題② 時事について意見を述べるすることができる。	時事について意見をまとめる 20日で合格N1 文法 ②
4	語彙探求① 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ・BJT読解 20日で合格N1 文法 ③
5	語彙探求② 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ④
6	時事問題③ 情報を正しく理解することができる。	時事について意見交換 20日で合格N1 文法 ⑤
7	時事問題④ 時事について他者の意見を聞き自身の主張をすることができる。	時事について意見交換 20日で合格N1 文法 ⑥
8	時事問題⑤ 時事について他者と意見交換し、考えをまとめることができる。	時事について意見交換 発表
9	語彙探求③ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	BJT読解 20日で合格N1 文法 ⑦
10	語彙探求④ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ⑧
11	語彙探求⑤ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ⑨
12	語彙探求⑥ 実践的で幅広い語彙の知識を身に着ける。	通訳ロールプレイ 20日で合格N1 文法 ⑩
13	前期の振り返り	前期のまとめ
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	『20日で合格N1』
参考文献・資料等	適宜プリント配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_薬学応用 I		( TCM209 )
講義名 (コード)	TCM_薬学応用 I		( TCM209 )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	ホイ リキ ニコル	時間数	30時間
成績評価教員	ホイ リキ ニコル	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医薬品に関する全般的な知識を修得し、日本の病院、薬局での医薬品使用実態を理解する。現場にて医師、医療者の医薬品説明を理解し、医療通訳者として患者に正確に伝える能力を修得する。
全体的内容と概要	講義と演習・模擬通訳を組み合わせ、受け身で講義を聴くだけでなく、毎回生徒に参加、発言させる。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・風邪の症状が起こる仕組み
2	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・風邪薬の主な配合成分
3	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・風邪薬の副作用と相互作用
4	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・熱が起こる仕組み・解熱鎮痛薬の配合成分
5	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 精神神経に作用する薬・眠気を防ぐ薬の働き・主な配合成分
6	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 呼吸器官に作用し薬・鎮咳去痰薬の働き・主な配合成分
7	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 呼吸器官に作用し薬・口腔咽喉薬・うがい薬（含嗽薬）の働き・主な配合成分
8	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 胃に作用する薬の働き・主な配合成分
9	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 腸に作用する薬の働き・主な配合成分
10	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 心臓などの器官や血液に作用する薬 高コレステロール薬の働き・主な配合成分
11	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 心臓などの器官や血液に作用する薬貧血薬・その他の循環器用薬の働き・主な配合成分
12	症状に対処するための薬を学ぶ。 薬の成分・作用点・留意点の理解する	講義 痔疾用薬・婦人薬の働き・主な配合成分
13	学んだことを再度総復習する	講義 前期講義の復習、テスト準備解説
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医薬品登録販売者試験」テキスト&要点整理 薬事日報社
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_情報リテラシー I	( TCM211 )	
講義名 (コード)	TCM_情報リテラシー I	( TCM211 )	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	佐々木隆一	時間数	30時間
成績評価教員	佐々木隆一	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医療従事者（通訳者）を目標に、本学の教育理念に基づき1年次に履修した内容を応用し、情報リテラシーのスキルアップを図り今後のキャリアを自ら形成・発展させることを目的とする。
全体の内容と概要	総合的に基礎となるWORD・EXCEL・PPTの連携ができ、集計表やレポートの作成、プレゼンへの応用など、演習を軸として実践的・総合的なICTスキルを養成する。
授業時間外の学修	余力がある人は、ドリルやオプションの問題にも積極的に取り組むこと。
履修上の注意事項等	必須課題を期限までに未提出の場合は、当日分が欠席扱いになるため必ず提出すること。 また万一、通信環境の事情によりUSBメモリが必要になる場合は別途指示をする。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション シラバスとPC環境の把握	教材配布・座席の指定、シラバス及び目標&予定、出欠&成績評価方法、 教室内PC環境と注意点、授業の進め方 他
2	情報セキュリティ	パスワードの管理、フィッシング詐欺と事例、情報セキュリティに関する 動画視聴
3	必須課題	授業内容に関する課題
4	情報セキュリティ	情報セキュリティに関する問題/補足
5	文書の入力とチラシの作成	チラシの作成-文字の入力/編集 課題提出について/フォルダ管理
6	Word編集機能の活用 チラシの完成	チラシの作成-編集作業 表・画像・図形・ワードアートの挿入 チラシの完成-調整&印刷イメージの確認
7	Word&Excelの連携操作 レポートの作成方法①	レポート作成上のモラル・注意点など レポート作成に必要な機能(p81-98)
8	Word&Excelの連携操作 レポートの作成方法②	レポート作成と完成
9	パワーポイントの概要及び、新 規スライド作成方法	プレゼンテーションの基本(p178-185)/PowerPointの概要(p186-190)
10	ストーリーに従ったスライドの 作成ができる	スライドの作成(p191-221)
11	スライド効果と 発表前の準備について	スライドの効果(p222-234)/プレゼンテーションの準備(p235-242) 発表する際の注意点
12	パワーポイント アニメーション機能の活用	アニメーションで画像を動かす プレゼンテーション大会に向けた自由研究
13	まとめと補足	まとめ・総合問題演習 質問対応等
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ISBN : 978-4908434-79-2 書籍名/出版社 : Office基礎と情報モラル (Office2021対応) /noa出版
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_ビジネスマナーⅢ		( TCM213 )
講義名 (コード)	TCM_ビジネスマナーⅢ		( TCM213 )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	伊東かつみ	時間数	30時間
成績評価教員	伊東かつみ	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	①敬語の変換の原則を理解し、②場面で応用できる
全体の内容と概要	就活やビジネスで使用する語彙を理解する。毎回のルーチン①出席一言作文、②毎日N1即時応答2問、作文訂正、よくある必要な表現
授業時間外の学修	自由作文
履修上の注意事項等	

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	間違いが理解できる	・ 前回のテストのフィードバック ・ 敬語の復習、演習
2	医療会話が正確に話せる	・ 医療従事者との会話 ・ 助詞の復習 ・ 謝り方
3	丁寧な話しかたができる	・ 断り方 ・ お詫び・お願い演習（ミラーリングの練習）
4	問題処理の言い方を理解する	課題；患者と医師の会話選択肢①ガン患者、②手術の説明、③謝礼を渡そうとする患者に対する対応
5	説明が正確にできる	・ 患者さんの状況を引き継ぐ
6	問題処理の言い方を理解する	・ 同僚のミスを報告する、マイナスワードとプラスワード
7	問題処理の言い方を理解する	・ クレーム対応演習、相手の立場の理解と適切な言い方（NLPの応用）
8	問題処理の言い方を理解する	・ 意見を言う ・ 反対意見を言う、（NLPの応用）
9	問題処理の言い方を理解する	・ 自分が間違っていないことを説明する。（相手を立てて、説得させる言い方）
10	問題処理の言い方を理解する	・ 医療ドラマのシャドウイング ・ 同様の問題の演習
11	問題処理の言い方を理解する	・ 会議でどうしても納得いかない場合、自分の意見の主張
12	問題処理の言い方を理解する	・ カンファレンスに参加する演習
13	復習	テストの練習
14	前期期末試験	学期試験
15	テストの解説	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	薬の作用と効く仕組み辞典
参考文献・資料等	適宜プリント配布, 動画とパワーポイント
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_キャリアデザインⅢ		( TCM215 )
講義名 (コード)	TCM_キャリアデザインⅢ		( TCM215 )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	川本 千陽	時間数	30時間
成績評価教員	川本 千陽	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	学内に招致する企業・学校を調べ、主体的に就職活動や進路先を主体的に調査・発表する。
全体の内容と概要	将来のキャリアプランを主体的に考え、卒業後の進路を決定するために行動する力を身につける。
授業時間外の学修	グループワーク、発表準備、授業課題
履修上の注意事項等	進捗の状況により変更する場合があります。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	卒業までの工程を具体化し改めて目標を確認する。	進路希望調査/進路希望ごとにグループ分けして、各自の進捗状況について話し合う。マンダラチャートを使って具体的行動計画を作る。
2	グループワーク（基礎）	進路希望「進学（大学・大学院）」「進学（専門学校）」「就職」「起業」「海外留学」それぞれに分かれて自分の現在の取組みについて話し合う。
3	進学についての理解を深める①	3年次編入（国内・海外）の条件、費用、出願方法について調査する。編入先大学の情報をホームページ、進路サイトを通じて調査する。
4	就職についての理解を深める①	企業採用担当者から会社説明をしていただき「仕事のやりがい」「働き方」「募集条件」「今後の展望」「求められる人物像」を聴き、進路選択に活かす。
5	起業についての理解を深める①	起業までのプロセス、法的要件、外国人が企業するための手続きについて調査する。
6	グループワーク①	進路希望ごとにグループワーク。自身の課題を洗い出し「情報収集」「選考対策」「合格後のキャリア」について討議する。
7	企業研究を通じて社会を知る。	会社情報を知り、自己の適性を考える。ホームページや就職情報サイト等を通じて企業の魅力を知り応募する場合の書類を作成する。
8	ハローワークについて理解する。	公共職業安定所（ハローワーク）の登録方法、求人票の見つけ方、面接対策、セミナー活用法を学ぶ。
9	ハローワークについて理解する。	ハローワークの担当者より活用法を学ぶ。
10	グループワーク②	進路希望ごとにグループワーク。自身の課題を洗い出し「情報収集」「選考対策」「合格後のキャリア」について討議する。
11	在留資格について知る。	在留資格変更許可申請の方法を知る。実際に在留資格変更許可申請書を書く。
12	グループワーク③	進路希望ごとにグループワーク。自身の課題を洗い出し「情報収集」「選考対策」「合格後のキャリア」について討議する。
13	グループワークで話し合った内容を個人発表する。	個人発表をもって期末試験とし評価対象とする。ひとり当たり3分でまとめる。
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療知識応用 I		( TCM217 )
講義名 (コード)	TCM_医療知識応用 I		( TCM217 )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	8単位
授業担当者	山本 樹実加	時間数	120時間
成績評価教員	山本 樹実加	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は、実務経験者による授業科目である。	授業形態	講義、演習・実習

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	グローバル化が進む医療を中心とした分野で活躍できるようになる。 医師と患者をつなぐ日中医療通訳資格と医療事務の資格取得を目標とする。
全体の内容と概要	毎回の授業前半で医療知識を講義・復習し、後半で小テストとロールプレイを行う。模擬試験は4回実施し、1・2回目は全体のレベルを把握するため、3・4回目は最終確認のために行う。
授業時間外の学修	授業の内容をしっかりと復習すること。
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	全体のレベルを把握する。	模擬試験形式の練習 1
2	全体のレベルを把握する。	模擬試験形式の練習 2
3	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 倫理・身体総論(講義・復習); (金) 小テスト・ロールプレイ
4	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 運動系・感覚系(講義・復習); (金) 小テスト・ロールプレイ
5	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 脳・神経系(講義・復習); (金) 小テスト・ロールプレイ
6	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 呼吸器・循環器(講義・復習); (金) 小テスト・ロールプレイ
7	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 血液・体液(講義・復習); (金) 小テスト・ロールプレイ
8	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 消化器系(講義・復習); (金) 小テスト・ロールプレイ
9	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 泌尿器・生殖系・小児科(講義・復習); (金) 小テスト・ロールプレイ
10	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 代謝・内分泌系(講義・復習); (金) 小テスト・ロールプレイ
11	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 感染症・薬(講義・復習); (金) 小テスト・ロールプレイ
12	検定試験の為、復習・練習を強化する	(月) 検査項目(講義・復習); (金) 小テスト・ロールプレイ
13	検定試験の為、復習・練習を強化する	3回目と4回目の模擬試験
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	適宜用意
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療通訳応用 I	( TCM219 )	
講義名 (コード)	TCM_医療通訳応用 I	( TCM219A )	
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	4単位
授業担当者	劉琦	時間数	60時間
成績評価教員	劉琦	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、関連分野で活躍した講師による授業である。	授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医療従事者として現場で即戦力となる確かな知識と技術を持ち、異文化に対する理解及び、通訳者として最低限度の言語運用力とコミュニケーション力を身につけた人材になる。
全体的内容と概要	医療現場の逐次通訳に重点を置き、即戦力を高めるための訓練を行う。主にロールプレイで医師と患者の会話を通訳しながら、発音の矯正や文法の解説もする。また、医療通訳の資格試験も視野に入れ、過去問などを学ぶ。
授業時間外の学修	3回の課題は成績の一部で必ず丁寧に完成させ提出する。毎日日本語のニュースを聞く。
履修上の注意事項等	通訳の文字資料および音声や動画資料を配布する場合は必ず予習しておくこと。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：受付
2	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：各種検査
3	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：内科
4	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：皮膚科
5	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：入院
6	医療通訳資格試験の模擬試験	過去問
7	医療通訳資格試験の模擬試験	試験問題の解説
8	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：薬局
9	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：腸・肛門科
10	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：産婦人科
11	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：呼吸器科
12	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：歯科
13	さまざまな医療現場で高品質の 通訳できる	演習：整形外科
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	試験問題を解説する

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「医療通訳」一般財団法人 日本医療教育財団 著（厚生労働省配布）
参考文献・資料等	医療通訳学習資料など
備考	状況により授業内容の順番を変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療翻訳		( TCM221 )
講義名 (コード)	TCM_医療翻訳		( TCM221 )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	4単位
授業担当者	株式会社ソラスト	時間数	60時間
成績評価教員	株式会社ソラスト	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	医師の事務作業を代行・補助する為の文書作成や電子カルテの代行入力等を行うために必要な知識と技能を身につけることができ、スキルの証として「医師事務作業補助者」の資格取得を目指すことができる。
全体的内容と概要	厚生労働省は医師の働き方改革を進めており、医師事務作業補助者は今後も高い需要が続くことを踏まえて、医師の事務作業を代行・補助するために必要な関連法規や医療知識、文書作成について演習を行いながら理解を深めます。
授業時間外の学修	知識の精度を上げるために必ず授業内容の復習をすること。
履修上の注意事項等	

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	医師事務作業補助者の必要性を理解する	医師事務作業補助者とは、医師の負担軽減の取組み、医療施設に関する法規
2	医療関連法規、診療録の記載を理解する。処方箋の作成ができる	医療従事者、予防衛生、保健衛生に関する法規 診療録の記載、処方箋の作成
3	その他の医療関連法規を理解する 文書の役割を理解する	薬事関連、介護保険法、療養担当規則、医療保険に関する法規 文書の役割、入院診療計画書の作成
4	医学の基本知識を習得する 診療情報提供書が作成できる	医療知識、医学の基本知識、血液・リンパ・免疫、骨格・筋系、循環器系 診療情報提供書の作成
5	医学の基本知識を習得する 退院時要約を作成できる	医学の基本知識、消化器系、呼吸器系他 退院時要約の作成
6	薬の基本知識を習得する 一般診断書が作成できる	医薬品とは、医薬品に関する法律、医薬品の分類、薬理の基礎 一般診断書の作成
7	個人情報保護を理解する。生命保険 会社保険金診断書が作成できる	個人情報保護法とは、カルテ開示 生命保険会社保険金診断書の作成
8	電子カルテを理解する 傷害保険診断書が作成できる	電子カルテシステムの概要、代行入力と業務範囲 傷害保険診断書の作成
9	医療機関の安全管理を理解する。死 亡診断書、出生証明書が作成できる	医療機関の安全管理、医療安全に関する国の取組み 死亡診断書、出生証明書の作成
10	院内感染予防を理解する。おむつ使 用証明書、健康診断書が作成できる	院内感染とは、院内感染防止対策 おむつ使用証明書、健康診断書の作成
11	法律に規定されている文書の作成が できる	傷病手当金支給申請書、出産手当金支給申請書、出産育児一時金支給申請書、 医療要否意見書
12	法律に規定されている文書の作成が できる	自動車損害賠償責任保険診断書、休業補償給付支給請求書、主治医意見書、 臨床調査個人票の作成
13	学科問題、実技問題演習 要点整理	学科問題演習、文書作成問題（実技）演習、要点整理
14	成績考課試験を実施する	成績考課試験（学科・実技）
15	検定試験合格に向けた受験対策を実 施する	検定試験対策（学科・実技）

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	テキスト1基礎知識編、テキスト2文書作成編、医学入門、医療関連法規、理解度チェック課題 (株式会社ソラスト)
参考文献・資料等	
備考	7月28日実施の医師事務作業補助者検定試験に挑戦すること。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	TCM_医療ツアー		( TCM223 )
講義名 (コード)	TCM_医療ツアー		( TCM223 )
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2年生
対象コース	CM2	単位数	2単位
授業担当者	日中医療通訳指導 (関野 登)	時間数	30時間
成績評価教員	日中医療通訳指導 (関野 登)	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	外国人患者受入業務の流れを正しく理解し、それぞれの場面での実践的な対応を習得する。 旅行業務の基礎知識と医療ツアーの企画立案に必要な最低限のノウハウを習得する。
全体の内容と概要	テーマ毎の講義終了後に事例研究や演習問題を実施して理解度を確認する。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	スマホを活用した下調べや計算等が必要となるケースがある。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	メディカル・ツーリズム概論 1	① 本講座の概要説明 ② メディカル・ツーリズムの概念とその現状
2	メディカル・ツーリズム概論 2	外国人患者受入及び医療インバウンドに対する日本の取組状況
3	外国人患者の受入業務 1	① 受入体制の整備(受入フロー) ② 関係当事者の役割(病院内、コーディネーター、医療通訳)
4	外国人患者の受入業務 2	来日前の対応(治療の環境整備)
5	外国人患者の受入業務 3	① 入院生活の環境整備 ② 治療終了時の対応
6	外国人患者の受入業務 4	リスク管理(予防と対応)
7	外国人患者の受入業務 5	トラブル対応：事例研究
8	外国人患者の受入業務 6	①日本の医療保険制度 ②医療費の検討
9	健診ツアー 1	事例研究（人間ドックツアーの問題演習と基礎知識の説明）
10	健診ツアー 2	事例研究（人間ドックツアーの解答解説と質疑応答）
11	医療ツアー企画 1	国内旅行実務の基礎（旅行業に関する法律、運賃計算等）
12	医療ツアー企画 2	海外旅行実務の基礎（国際時間計算表の見方、時差計算）
13	医療ツアー企画 3	海外旅行実務の基礎（航空時刻表の見方、所要時間の計算、航空会社の実務）
14	期末試験	学期末試験
15	追試・フィードバック	追試/学期末試験の解説 医療ツアー全体の総括

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「外国人患者の受入参考書」経済産業省（HPからダウンロードしてコピー配布）
参考文献・資料等	「外国人患者の受入れのための医療機関向けマニュアル」厚生労働省 その他教材は独自に作成して、事前にコピーを配布する
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。